

第1回『禅の里』まちづくり実行委員会

第1回『禅の里』まちづくり実行委員会では、委員会規約や委員長、副委員長などの選出とともに、本年度の事業のスケジュールや具体的な検討内容などについて調整を行った。また、他都市のまちづくりの事例紹介を行い、意見交換を実施した。

1 開催日時・場所

日時：平成23年9月12日（月）16：00～
場所：永平寺会議室

2 議事次第

- 1)『禅の里』まちづくり実行委員会立ち上げに至る経過報告
- 2)まちづくりの実際例について

3 委員会での議論

1) 観光動向について

- 永平寺は昨年度57万人まで参拝客が減少した。多い時には150万人の参拝客が訪れていた。
- 観光客が減少した要因は、鉄道が廃線になり交通の便が悪くなったことだと思う。廃線については町長から何も説明がなかった。観光客は鉄道がなくなってどのようにして永平寺まで行けばよいか分らなくなったのが観光客減少の原因ではないか。
- 新聞で永平寺のことが2週続けて記事になった。中高生には福井県、福井市がどこであるか分からない人が多いと聞く。福井市、永平寺がどこにあるかを知ってもらうことが重要。
- 高山や京都の嵐山、宇治、奈良、金沢など人気のある他都市に視察に行くが、人の集まる観光地のニーズが変わってきている。ぶらり旅ができる場所が観光地として賑わいを持っている。
- 京都の清水寺周辺でも、外見は変わっていないように見えるが、中身は変わっている。店として駄目なところは新しい人が入ってきている。
- 他都市の観光地を見て、まちなみが楽しい、色々なものがあるということが今の観光の主流であると思う。
- 福井県に住んでいるのに永平寺に行ったことがない若者が多い。永平寺を見ることも魅力的であるが、それだけでは、若い人は足を向けない。他に魅力がないと若い人をひきつけることは難しい。

2) 永平寺と門前の関係について

- 本山は修行道場として精一杯やっており、これ以上何かをすることは難しい。
- 門前町の活力が人をひきつける、参拝客を増やす要因となると思うが、残念ながら同じようなお土産物屋が並んでいる状況である。この機会をきっかけとして永平寺町の門前町が活性化するようにがんばってほしい。
- 50万人に減った観光客を一度に取り戻すことは難しいと思うが、少しずつでも回復できるようにがんばっていければよいと思う。

3) 永平寺、門前の問題・課題とその解決方法について

- どの橋の色も赤く趣がない、川もコンクリートで趣がないなど問題がある。一度には出来ないので、一つひとつ考えて進めていくことが必要である。
- 門前の一つのモデルとして入り込むことは可能であると思う。門前らしさ、永平寺らしさをめざし、小さいことをコツコツと進めていくことで光が見えてくる。
- 今までは永平寺だけで人が集まってきたが、今後は店の魅力でにぎわいを創出していくことが重要である。
- 自分たちも変わっていかないといけないと思う。ブランド力も必要。門前でも自分の店舗を考えていくだけでなく、外からのテナントも考えていく時代がやってくると思う。
- 観光地という土地柄に甘えているようで、一つひとつの店が福井市内、県外に出ても通用するようにならないと店自体が成り立たないと思う。

図 第1回『禅の里』まちづくり実行委員会の様子

